

2024年度 事業報告書

自 2024 年 4 月 1 日

至 2025 年 3 月 31 日

2024 年度4つのトピクス

1. **DEAR 応援月間企画「With DEAR～あなたと『ともに』DEAR と『ともに』」**を実施し、開発教育を継続・発展させ、現場で実践を行う方々を支え続けていくための活動資金として寄付を募り、**133 件、総額 1,505,810 円のご寄付**を集めることができました。ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。
2. おとなのアクティブ・シティズンシップを意識化し推進していくための教材『**おとな・ユースのためのアクティブ・シティズンシップ教育ハンドブック**』を 2024 年 12 月に発行しました。2025 年 1 月には広島にて、開発教育や成人教育に関わる方々とハンドブックを使ったワークショップや、経験交流を行いました。
3. 認定 NPO 法人アーユス仏教国際協力ネットワークの **2024 年度 NGO 新人賞**を、**松川清美職員が受賞**しました。国際協力 NGO での活動経験が少ないながらも、今後さらなる活躍が期待され、国際協力 NGO の将来を背負っていくと期待される個人に授与される名誉な賞です。
4. **d-lab2024（第 42 回開発教育全国研究集会）**は、全体会を初のハイブリッド開催。さらに自主ラウンドテーブル、実践事例・研究報告では合計 19 のプログラムを実施し、全国や海外から計 248 名が参加するエネルギー溢れる会となりました。全体会では「**「紛争・人の移動・共生を考える『わたしたちは出会うために生まれてきた』」**」をテーマに、活発な議論が行われました。



認定NPO法人 開発教育協会(DEAR)

もくじ

事業の概要

1. はじめに～2024 年度をふりかえって 2
2. 各種事業報告
 - I. ネットワーク事業 3
 - II. 実践・研究事業 4
 - III. 情報・出版事業 6
 - IV. 人材育成事業 7
 - V. 政策提言事業 9
 - VI. その他の事業 9
3. 組織運営に関する報告
 - 1) 会報「DEAR ニュース」の編集・発行 10
 - 2) サポーターの募集 11
 - 3) DEAR 応援月間企画「With DEAR」 11
 - 4) 会員アンケートの実施 11
 - 5) アーユス新人賞受賞 11

処務の概要

1. 会員に関する事項 12
2. 役員等に関する事項 12
3. 会員総会に関する事項 13
4. 理事会に関する事項 13
5. 評議員会に関する事項 13
6. 2024 年度事業評価・2025 年度計画会議 13
7. 各種委員会に関する事項 14
8. プロジェクト・チームに関する事項 14
9. 職員に関する事項 15
10. インターン・ボランティアに関する事項 15
11. 会員団体に関する事項 16

資料編

- 資料 1. メディア掲載・取材協力など 16
- 資料 2. 名義後援・協力の実績一覧 17
- 資料 3. 他団体への賛同・協賛の実績一覧 17
- 資料 4. 講師派遣の実績一覧 18



2024 年 12 月には新刊、「おとな・ユースのアクティブ・シティズンシップ教育ハンドブック」発行！



アーユス賞 NGO 新人賞を受賞しました



ESD / 開発教育ファシリテーション講座を宿泊型で開催

1. はじめにー2024年度をふりかえって

社会の大きな動きの中で

2024 年は、国内外で様々な選挙が行われ、民主主義や政治参加のあり方が問われるとともに、市民社会の力が試される機会が多くありました。

昨年に続き、今年も世界的に観測史上最も暑い年となり、国内外で異常気象や自然災害が頻発しました。気候変動対策が待ったなしの状況であるにもかかわらず、世界各地では紛争や対立が激化しています。

気候変動や災害、紛争による深刻な被害は、途上国や立場の弱い人々に集中しており、国際的な連帯や協働が様々な分野で今まで以上に強く求められています。

多くの地球的課題に対しては、その背景や構造、歴史を理解し、他者と共に学び、より公正な社会はどのようなものなのかを考え、社会づくりに参加していく姿勢が求められており、開発教育はそのような取り組みを重視しています。

国内においても、貧困や経済格差、教育や生活、医療や福祉の保障などが大きな課題になっています。また、移民や難民として来日する外国ルーツの人々に対する人権侵害や、分断を助長するような言動も深刻な問題です。

これまでのように経済や効率を優先し、環境や資源、労働力を搾取しながら、競争を激化させ格差を拡大させる社会ではなく、人権が尊重され、多様性が保障されること。さらに、資源の公正な分配と対話を通じて支えあう、持続可能な社会の構築が求められています。

そして、子どもたちだけでなく、私たち大人自身も主体的な学習者であり続けられるよう、教育を捉えなおしていく必要があります。

今年度は、「中期方針・重点事業」の中間年であり、前半を振り返りながら、各種事業を実施しました。職員の働きやすさも考慮して、在宅勤務を中心にしながらも、講師派遣や d-lab、教材体験フェスタなどは、対面で実施しました。

中期計画の実施報告

2024 年度は、「2022-26 年度 中期重点方針・中期重点事業」3年目の年となりました。

<2022-2026 中期重点方針>

**方針1. 開発課題をわたしたちの課題として捉え考える
市民性・公共性の追求**

**方針2. 教育者中心から学習者中心の教育へ教育観の
転換に向かう**

<2022-2026 中期重点事業>

1. 開発課題（ジェンダー・貧困など）と開発教育に関する研究会の実施
2. 成人教育、社会教育としての開発教育の推進
3. 開発教育ファシリテーション（対話）の再考・議論の促進
4. 教育政策に関する調査・ネットワークづくり
5. 組織基盤強化

重点事業1では、「開発」の意味や望ましいあり方を問い、多様で複雑な「開発」課題を認識し、それらの理解を深めることや、課題達成に向けた行動を促していくために、「市民性」や「公共性」に関する議論を広く提案していくことを目指しました。

SDGs研究会では、「SDGsに関するアンケート」を実施、公表するとともに、d-labでは、「社会を変える学び」をテーマに、SDGsについて学ぶだけではなく、学習者が主体的に自らの学びを社会とつなげ、「変容」を実感する学習について考えました。

ジェンダー研究会では、昨年度作成した教材を使った講師派遣を実施しました。

重点事業2では、成人教育・社会教育の観点を持った開発教育活動の実践のあり方を広く共有することや、大人が学び続けられる環境づくりや教育保障と、人々が市民的な力を得ることで社会が変容していくような教育の議論・提案をし、地域における実践共有や、政策提案をするネットワークを構築することを目指しました。

ALE プロジェクトでは、全国の成人教育・社会教育の好事例を収集し、意見交換を行ったうえで、『おとな・ユースのアクティブ・シティズンシップハンドブック』を作成しました。

重点事業3では、参加体験型の学習・教育方法の普及推進にとどまるのではなく、管理・伝達・誘導型の教育観を問い直し、学習観を持つことや、子ども若者と大人の主体的な学習のあり方と、それを支える教育や学校のあり方や役割を、広く議論し共有していくことを目指しました。

開発教育ファシリテーション講座では、初めて、オンラインと対面で「ファシリテーション講座」を実施しました。

重点事業4では、開発教育実践者や市民組織と協力して、国内の教育政策への提案を行うことや、全国の開発教育実践者が開発教育や ESD を実施しやすい環境をつくるために、政府や自治体行政との対話の場を広げることを目指しました。

とくに、「国内持続可能な開発目標 (SDGs) に関する自発的国家レビュー (VNR)」などに関して、SDGs 市民社会ネットワークとも協力し、積極的に政策提言活動を行いました。

重点事業5では、財政構造の分析と見直しを行ったうえで、経費削減や新規財源獲得の検討を行いました。2か月に一度、年 7 回の理事会を開催し、理事を中心としたチームにおいて、事業運営や財政基盤の議論をすすめました。

12月には DEAR 応援企画として「With DEAR」を実施し、多くの方の応援をいただくことができました。

しかしながら、財政基盤の立て直しにはまだ時間がかかることも確認され、引き続き、組織基盤強化のために協力者を拡大していくことの重要性が共有されました。

参加を重視した事業運営

年度当初に計画した6つの領域「Ⅰ. ネットワーク事業」「Ⅱ. 実践・研究事業」「Ⅲ. 情報・出版事業」「Ⅳ. 人材育成事業」「Ⅴ. 政策提言事業」「Ⅵ. その他の事

業」においては、概ね事業計画通りに各種事業を実施することができました。

参加を重視するという点では、ウェブにも掲載している『『みんなの参加』のための DEAR の取組』にもあるように、あらゆる人々が安心して参加するための学びの場づくりをすすめています。

具体的には、講座やセミナーにおいて、託児の実施や、視覚障害を持つ会員には、会報や機関誌のテキストを毎回データで送付しています。このような取組を広く関係団体へも伝えていきたいと思います。

なお、各事業にかかわった委員会やタスクチームのメンバーについては、14～16頁をご覧ください。



d-lab2024 実行委員・ボランティアのみなさん

2. 各種事業報告

Ⅰ. ネットワーク事業

ネットワーク事業は、国内外の開発教育およびESD関係者と実践経験を共有し、開発教育の普及、深化をはかることを目的としている。今年度は、新しく発行した『おとな・ユースのアクティブ・シティズンシップ教育ハンドブック』を活用し、担い手との連携・強化を図った。

1) 国内ネットワーク事業

①地域ネットワーク会議

成人学習・教育 (ALE) プロジェクトの一環で、広島の下記2団体に訪問。また、ALEプロジェクトで発刊したハンドブックを活用したワークショップを実施し、地域の課題を深掘りし、地域社会をどう「開発」するのかについて考えた。

<団体訪問概要>

- ・ 日程:2025 年 1 月 12 日(金)
- ・ 訪問先:ANT-Hiroshima、広島 YMCA

<ワークショップ概要>

- ・ テーマ:「豊かな地域社会と持続可能な地域を考えるワークショップ」
- ・ 日程:2025 年 1 月 11 日(土)
- ・ 会場:場所:東広島イノベーションラボ ミライノ+
- ・ 参加者数: 22 名
- ・ 主催・共催:JICA 中国、開発教育協会

報告は note (旧 スタッフブログ) に掲載。
<https://note.com/ngodear>

②成人学習・教育(ALE)プロジェクト

2022年6月開催の第7回ユネスコ国際成人教育会議(CONFINTEAⅦ)の成果文書を受けて、文科省との政策対話(詳細は「政策提言事業」参照)や、成果文書で強調されているアクティブ・シティズンシップの国内および地域や市民活動での推進のため、2021年～2023年までプロジェクトを実施。

各実践や活動の中のアクティブ・シティズンシップ教育を再評価し推進できるよう、地域づくりや市民活動で使える成果物(ハンドブック)を作成・発行した(後掲)。今後、地域ネットワークを展開していくうえで、教材を活用したワークショップの実施や、NPO/NGO スタッフ、公民館スタッフ、社会教育・ユース活動に関わるスタッフ、学校教職員、社会人学生に活用してもらうことを想定している。

③学びあいフォーラム

2015年度～2020年度まで、地球環境基金の助成を受けて活動をおこなった「学びあいフォーラム」では、2021年度から2023年度まで、アーカイブチーム、座談会チーム、学びあいサークル等のチームに分かれ、それぞれの関心に基づいて活動を実施した。この度、各チーム活動のまとめ、noteに報告を掲載した。
<https://note.com/ngodear/n/n71c025bdcb11>

2)海外ネットワーク事業

①ASPBAEとの協働

アジア南太平洋基礎・成人教育協会(ASPBAE/

アスベ)の団体会員として、成人教育や教育協力に関する情報共有を行った。

②ANGELプロジェクトへの協力

主に欧州で開発教育やグローバル教育を実践・研究する人々のネットワークである ANGEL (Academic Network on Global Education & Learning) 主催のウェビナーに事務局長の中村絵乃が協力した。ANGELは英国の開発教育協会(DEA)の元事務所長、ロンドン大学教育院(UCL/IOE)の開発教育研究センター(DERC)、センター長のダグラス・ボーン氏が立ち上げたネットワークで、定期的なセミナーを行っているため、会員への情報共有も行った。

Ⅱ. 実践・研究事業

開発教育の研究実践活動の質的な深化や向上に向けて、関連する教育的課題や今日的課題などに関する調査研究活動を行った。機関誌は「シティズンシップを培う教育を考える」をテーマに特集を組んだ。

1)「開発教育研究会」

①「SDGs と開発教育研究」部会

<アンケート調査の実施・公開>

『SDGs 学習のつくりかた:開発教育実践ハンドブックⅡ』(2020 年)発行以来、SDGs 学習がどのように展開されているのかアンケート調査を実施。分析を公表した。

<https://www.dear.or.jp/infomation/14614/>

<d-lab 分科会の実施>

SDGs 学習を深めていく、社会を変容するための学びについて、社会教育、学校教育など多様な場を舞台に議論をするため、d-lab(後掲)において、「『社会を変える学び』とは?～SDGs 学習を考える』と題して分科会を実施し、教員やNPOスタッフを中心に 30 名が参加した。

②「開発教育ファシリテーション研究」部会

「ESD / 開発教育ファシリテーション講座ー私が変

わる、未来をつくる」の運営チームとして、講座の企画運営、実施をした(講座については後掲)。過去3回にわたりオンラインで実施した講座の成果を活かし、対面(宿泊型)でおこなった。講座を通じて、自身の持つ価値観を問い直す姿勢を大切にしながら、「開発教育のファシリテーションの9要素と8つのスキル」について受講者と確認した。

<https://www.dear.or.jp/activity/12836/>

③「ジェンダーと開発教育研究」部会

昨年度発行した『すべての人が生きやすい社会へ教育をジェンダー視点で見直すヒント集』を使った講師派遣の依頼があり、事務局が講師を務めた。研修の内容や進行については研究会メンバーから助言や意見をもらい構成し、当日の実施にもアシスタントとして協力してもらった。研究会メンバーの協力のもと、よりよい実践が可能となった。

2) 機関誌『開発教育』の編集発行

機関誌『開発教育』第71号を発行した。特集は「シティズンシップを培う教育を考える」とした。開発教育とシティズンシップ教育の深い関わりを紐解きながら、これからの社会を担う子どもたち、そして私たち大人も共に学び、成長できるような教育のあり方を模索した。



開発教育とシティズンシップの関係性、スウェーデンの若者の高い投票率の背景、グローバルな視点からの教育、校則の見直しを通じた実践など、幅広い論考を掲載した。

<概要>

- ・ 特集:「シティズンシップを培う教育を考える」
- ・ 発行:2024年12月10日
- ・ 判型・頁数:B5判・92頁
- ・ 発行部数:900部
- ・ 価格:2,200円(税込み)

また、2023年度に発行した、『開発教育70号』(「国際協力を通じた学び」)について自由に語り合う「機関

誌オンラインカフェ」を開催し、各論文の感想や気づきを共有した。

<オンライン機関誌カフェ概要>

- ・ 日時:2024年4月26日(金)19:30~21:00
- ・ 参加者:13名

3)d-lab2024(第42回開発教育全国研究集会)の開催

42回目となる今回は全体会をハイブリッド開催。ワークショップ体験(6コマ)、全体会、自主ラウンドテーブル(16コマ)、実践事例・研究報告(3コマ)、分科会(5コマ)を通して、開発教育・ESD・国際理解教育等に関わる実践者の経験交流・意見交換を中心に据えながら、議論を深めた。

全体会では、進行を阿部眞理子(認定NPO法人IVY)が務め、ゲストにサヘル・ローズ氏(俳優、タレント)と木下理仁氏(東海大学非常勤講師)を招いて、「紛争・人の移動・共生を考える『わたしたちは出会うために生まれてきた』」をテーマに参加者と共に議論した。



<概要>

- ・ 日程:2024年8月3日(土)、4日(日)
- ・ 会場:JICA 地球ひろば(東京・新宿区)
- ・ 参加者数:248名(2日間合計、関係者を含む)
- ・ 主催:(特活)開発教育協会
- ・ 後援:文部科学省、外務省、環境省、消費者庁、東京都教育委員会、新宿区教育委員会、国連広報センター、JICA 地球ひろば、ESD 活動支援センター、SDGs 市民社会ネットワーク、関西 NGO 協議会、国際協力 NGO センター、自治体国際化協会、ユネスコ・アジア文化センター、名古屋 NGO センター、NGO 福岡ネットワーク、沖

縄 NGO センター、IVY、AAR Japan (難民を助ける会)

発行: 開発教育協会
発行日: 2024年6月 (初版2001年)
発行部数: 1,500部

Ⅲ. 情報・出版事業

新規教材等の作成・増刷、ウェブサイトや SNS を活用した情報発信を行った。

1) 新規教材図書の企画編集と制作発行

開発教育に関連する次のような新規の教材や図書の、企画編集や制作発行や増刷をおこなった。またそのために、引き続きその財源の確保に努めた。

① 『おとな・ユースの アクティブ・シティズンシップ教育 ハンドブック』発行

実践や活動のアクティブ・シティズンシップ教育を再評価し推進できるよう、地域づくりや市民活動で使えるハンドブック。解説編(アクティブ・シティズンシップのための成人教育について)、実践編(8つのアクティビティ)、資料編(「成人学習および成人教育に関する勧告」および、『マラケシュ行動枠組み』)を掲載。

- ・ 発行: 開発教育協会 (DEAR)
- ・ タイトル: 『おとな・ユースの アクティブ・シティズンシップ教育 ハンドブック』
- ・ 2024年12月、A4判52頁
- ・ 企画・編集: 開発教育協会内「ALE(成人学習・教育)プロジェクト」ハンドブック作成チーム
- ・ 一般価格: ¥3,300 (図書館価格: ¥6,600) (税込)、会員価格: ¥2,640 (税込)
- ・ 対象: 実践者向け

② その他図書教材の編集企画・編集協力

既存の教材で在庫が少ない以下の教材の改訂・増刷発行を行った。

< 単純増刷 >

『Social Action Handbook』

発行: 開発教育協会

発行日: 2024年4月 (初版2017年)

発行部数: 500部

『新・貿易ゲーム』

< 改定増刷 >

『スマホから考える私・世界・SDGs』

発行: 開発教育協会

発行日: 2024年10月1日 (初版: 2018年)

発行部数: 600部

『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第7版』

発行: 開発教育協会

発行日: 2025年3月 (初版2003年)

発行部数: 1,500部

2) 出版物販売

当会発行の教材・図書資料をインターネット等を通じて販売した他、関係団体の発行図書の受託販売、教材カタログやAmazonなどの販路で販売を行い自己財源の強化を図った。

< 書籍売り上げ年間ベスト5 >

1. 『ワークショップ版世界がもし100人の村だったら』462冊 (第6版419冊、第7版43冊)
2. 『新・貿易ゲーム』 230冊
3. 『教育をジェンダー視点で見直すヒント集』161冊
4. 『スマホから考える世界・わたし・SDGs[改訂版]』119冊
5. 『服・ファッションー開発教育アクティビティ集5』114冊

3) 広報資料作成

① ウェブサイトの運営 <https://www.dear.or.jp/>

開発教育ポータルサイトとしてウェブサイトでの情報発信を行った。よく読まれているのは「教材」「イベント」「参加型学習」関連のページである。

※解析ツール (google analytics) の仕様変更のため今年度は正確なアクセス解析データがとれなかった。

② Facebook ページの運営

<https://www.facebook.com/ngoDEAR/>

2013年8月に全研広報用に開始し、9月末に公式 Facebook ページとしてリニューアルした。主催イベン



トや教材の紹介のほか、開発教育や国際協力に関連するニュースも配信している。

- ・3月末の「いいね！」数:3,807(前年比+20)
- ・3月末のフォロワー数:4,175(前年比+60)

③メールマガジンの発行



<https://www.mag2.com/m/0000270703>

毎月1回のメールマガジンの発行を開始し、主催事業や資料の情報を発信した。3月末現在3,980件(前年比+11件)が登録している。

④Xの運営



<https://twitter.com/ngoDEAR>

2011年11月16日にツイッターを導入(アカウント名は@ngoDEAR)。イベント情報や教材関連情報を中心にツイートしている。3月末のフォロワー数:1,553(前年比+26)。

⑤Instagramの運営



<https://www.instagram.com/ngo.dear/>

2024年8月に全研広報を機に新設した。

- ・投稿記事:294本
- ・フォロワー:209人(前年比+79)

⑥noteの運営



<https://note.mu/ngodear>

ニューズレター・チームの発案により2018年10月からページを開設し、ニューズレターや機関誌の記事を不定期に公開している。また、逝去された方の原稿や講演録も掲載している。

ページビューは4,694件(昨年比+178件)、「スキ」は83件(昨年比+49件)、記事購入者は7件(昨年比-14件)。

⑦PR TIMESの利用

2018年度よりプレスリリース一括配信サービスPR TIMESの無償提供プロジェクトに参加登録し、不定期で教材発行やイベント情報を掲載している。複数のウェブメディア等に配信されるため、露出効果が高い。

開発教育の実践者を支援し増やすために、講師派遣事業や各種講座を行った。特に、ジェンダーやSDGsについて、ファシリテーション講座など、多様なニーズに対応した。

1)講師派遣事業

政府機関・自治体・教育委員会・学校・大学・自治体国際化協会・NGOなどからの講師派遣依頼に対して、DEARの役職員等を講師として計45件96回派遣した。述べ参加者は約4,000名。

今年度からはほぼ対面で実施した。依頼先は大学やNGO、JICAなどが多く、内容は各種ワークショップの他、ジェンダーや気候変動、SDGsをテーマにしたものなどが多かった。詳細は「資料編(19頁)」を参照。

2) ESD / 開発教育ファシリテーション講座ー私が変わる、未来をつくるー

ESD/開発教育のファシリテーションに不可欠な要素を共に学ぶとともに、自分と向き合い、自身の持つ価値観を問い直す姿勢を大切にしながら、受講生なりのファシリテーションを形づくる講座を開催。受講者には修了書を発行した。

<講座概要>

- ・日程:

1)オリエンテーション(オンライン)4月25日(木)19時30分~21時

2)プレ・ファシリテーション講座(オンライン)5月10日(金)19時30分~21時30分

3)ファシリテーション講座(一泊二日)5月18日(土)~19日(日)

4)ふりかえりと修了式(オンライン)6月16日(日)9時~13時

5)個別フォローアップ(適宜)

- ・会場:オンラインと日本YMCA同盟 国際青少年センターYMCA 東山荘
- ・参加者数:14名



IV. 人材育成事業

<プログラム講座概要>

1)オリエンテーション

セッション(1)

私と開発教育とファシリテーション

セッション(2)

感情や枠組みに気づき、ありのままの相手を聴いてみよう

セッション(3)

開発問題に合意形成は欠かせない！

セッション(4)

交流を通して、繋がりを深めよう

セッション(5)

「問い」の視点を深めよう

セッション(6)

自分のファシリテーションを振り返る～よりよい教育実践を創るために／修了式

報告はnote(旧スタッフブログ)に掲載。
<https://note.com/ngodear>

3)各種講座

①「開発教育入門講座」

開発教育の基礎的理解を目的とした入門講座をオンライン／対面で開催し、うち2回は特別編とした。毎月1回、計9回、約 名の参加者を得て開催した。8月はd-labにて実施し、12月はタスクメンバー対象の勉強会を開催した。

- ・ 4月19日(金)夜間 7名(パーム油)
- ・ 5月15日(水)夜間 9名(パーム油)
- ・ 7月23日(火)夜間 10名(ファッション／横浜YMCAにて対面開催)
- ・ 8月3日(土)午後 17名(パーム油・開発教育基礎解説／d-lab)
- ・ 9月26日(木)夜間 7名(パーム油)
- ・ 10月22日(火)夜間 6名(パーム油)
- ・ 11月22日(金)夜間 11名(100人村／聖心女子大学BE*hiveにて対面開催)
- ・ 12月6日(金)交流会・勉強会 5名(人権宣言を読んだ意見交換会)
- ・ 1月22日(水)夜間 8名(パーム油)
- ・ 2月20日(木)午後 3名(パーム油)

② SDGs 教材×ファシリテーションフェスタ

例年、教材の周知と販売、新教材の紹介、新規参加者ならびに会



員の獲得、開発教育の実践に繋がる機会提供を目的に実施していた「教材体験フェスタ」に、ファシリテーションに関するレクチャーも加え、今年度新たなイベントとして実施した。「ファシリテーション」に関する内容を盛り込むことで、新たな層にアプローチするだけでなく、各地の実践者や教材購入者と改めて接点を持つ機会とした。全国・様々な分野から、約90名の参加(関係者含め)があり、活発に意見・情報交換が行われた。教材販売では、24年12月発行の「おとな・ユースのためのアクティブ・シティズンシップ教育ハンドブック」や、イベント当日より発売を開始した「ワークショップ版・世界がもし100人の村だったら 第7版」など、多数の教材を揃えた。

<概要>

- ・ 日程: 3月20日(木・祝) 10時～18時
- ・ 会場: JICA 地球ひろば(新宿区)
- ・ 参加者: 71名
- ・ 講師・ボランティア: 24名

<プログラムと講師(敬称略)>

- ・ A1 ワorkshop版・世界がもし 100 人の村だったら／岩岡由季子(会社員・ファシリテーション研究会)・谷田なつ美(小学校教員・ファシリテーション研究会)
- ・ A2 コーヒーカップの向こう側／伊藤容子(DEAR 事務局次長)、阿部 真理子(認定 NPO 法人 IVY・DEAR 理事)
- ・ A3 写真で学ぼう! 地球の食卓／佐藤友紀(大学教員・DEAR 代表理事)、小口瑛子(会社員・DEAR 評議員)
- ・ B1 新・貿易ゲーム／松倉紗野香(中学校教員・DEAR 副代表理事)、中村絵乃(DEAR 事務局長)

- ・ B2 おとな・ユースのためのアクティブ・シティズンシップ教育ハンドブック／近藤牧子(DEAR 事務局長補佐)、栗本知子 (NPO 法人アジア太平洋資料センター(PARC))
- ・ B3 スマホから考える世界・わたし・SDGs[改訂版]／石川一喜(大学教員・副代表理事)、八木亜紀子(DEAR 職員)

③おうち DE 開発教育

おうち DE 開発教育プロジェクトは、開発教育に関わりながら子育てをしている人が、開発教育・自分・生活・子育てを語れる場をつくりたいと考え発足した。運営メンバーは5名である。

＜活動内容＞

自由に語り合う「子育てカフェ」というイベントをメイン活動として実施している。子育てカフェは、第1回ではFoEJapan と共催し気候変動と子育てをテーマに語り合った。延べ参加者数は20名。

- ・第1回子育てカフェ(FoEJapan との共催)
:2024年6月11日(火)
- ・第2回子育てカフェ:2024年7月2日(火)
- ・第3回子育てカフェ:2024年11月29日(金)
- ・d-lab2024 自主ラウンドテーブル開催

V.政策提言事業

中期重点事業4にもあるように、SDG4.7だけでなく、SDG4を中心に、開発教育やESD実施のための提案をほかの市民団体やネットワークと連携・協力しながら進めた。

1)行政に対する政策提言

①国際協力政策・援助政策に対する政策提言

SDGs 市民社会ネットワークの教育ユニットの世話人になることで、国内の教育問題に関するSDGs政策への提言を行うことができた。

また、NGO-JICA協議会のNGO側コーディネーターとして参加したり、政府の「SDGsに関する自発的国家レビュー(VNR)報告書」に関するステークホルダー会議に参加して、webなどで、広くパブコメを呼びかけたりした。

② 教育行政・教育政策に関する政策提言

ESD 活動支援センターの「ESD 活動支援センターの企画運営委員」として参加するほか、「SDGsスポットライトレポート」(SDGsジャパン)を提出するために、文部科学省を訪問するなど、情報提供などを積極的に行った。

2)キャンペーンへの協力

①教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)主催「SDG4教育キャンペーン2024」への協力

基礎教育を受けられない子どもたちや非識字の人々が世界中に多くいる現状に目を向け教育の大切さを世界中で同じ時期に考える、グローバルなキャンペーン。2016年度よりSDG4(教育目標)達成を目標に掲げている。今年度は広報などに協力した。

＜概要＞

- ・ テーマ:紛争下の教育を知ろう
- ・ 2024年度のSDG4教育キャンペーンでは、難民キャンプでの授業の中継も含めて、紛争などの危機下の教育に関する3回のオンライン授業と、特別授業を実施した。

VI.その他の事業

1)受託事業

①消費者教育「中高生のためのサステナブルファッション習慣促進教材作成業務」

消費者庁より標記の業務を委託し、中高生のサステナブルファッション習慣を促進する教材を作成した。

主な業務として、各分野の専門家で構成する教材検討会における議論、中学校、高校における模擬授業での検討を通して教材を完成した。

＜作成教材概要＞

- ・【進行役・教師用】解説書 A4判35ページ



・【参加者用サステナブルファッション習慣ハンドブック】
A4判12ページ

・スライド資料

・ワークシート(縦、横)

・動画「サステナブル じゃない ファッション習慣のすすめ!」(3分48秒)

詳細はこちらから

<https://www.ethical.caa.go.jp/sustainable/>

プログラム:開発教育・国際教育セミナー「世界を感じて、その先へ ～コミュニケーションから考える対立と平和」

会場:大阪国際交流センター

共催:(公財)大阪国際交流センター、(独)国際協力機構関西国際センター

協力:DEAR大阪

講師(敬称略):佐藤友紀

参加者数:42名

②聖心グローバルプラザ内「BE * hive」

聖心女子大学グローバルプラザ内に設置された展示・ワークショップスペース「BE*hive(ビー・ハイベ)」の展示を活用したワークショップの企画・運営等を行った。2024年度は展示の大テーマが「子どもと不条理」であり、昨年度作成した第1期「こどもと戦争」、第2期「こどもと放射線」をはじめ、すでに作成した教材を活用してワークショップを行った。

＜概要＞

聖心グローバルプラザ「BE*hive」

主管:聖心グローバル共生研究所

＜業務内容＞

ワークショップの実施

- ・ワークショップ実施回数:15回(うち聖心女子大学学生向け10回)
- ・参加合計数:約 300 名(うち聖心女子大学基礎課程演習参加者約 200 名)

③ 國學院大学 SDGs講座企画運営

國學院大学の共通教育プログラムとしてSDGsに関する授業「共存・共生の思想2」を、参加型で進めるための授業案の提供と実施、ファシリテーターの研修などを行った。(履修者:約200名)

2)外部団体との共催・協力事業

①2024年度開発教育・国際教育セミナー

＜主管:DEAR大阪＞

(公財)大阪国際交流センター、(独)国際協力機構関西国際センターが共催する、開発教育に関する基礎的理解を目的としたセミナーの企画・開催に協力した。

＜開催実績＞

日程:2025年1月25日(土)

②ESD活動支援センター運営委員

ESD 推進ネットワークの全国的なハブとなり、ESD活動の支援を行うため、環境省により開設された「ESD 活動支援センター」の運営委員として、近藤牧子理事・事務局長補佐が会議等に参加した。

3. 組織運営に関する報告

1)会報「DEAR ニュース」の編集発行

開発教育の関連情報をはじめ、DEARや各地の「担い手」などの活動状況を紹介することを目的とした会報を5回(4・6・8・10・2月)、各号900部を発行した。2025年度6月号からのデジタル版発行に向けて、改訂デザインを決定した。

号	特集(寄稿者は敬称略)
第216号 (4月発行)	芸術のエンパワメント:川上幸之介(倉敷芸術科学大学)
第217号 (6月発行)	森林破壊と人権侵害への対処 :川上 豊幸(レインフォレスト・アクション・ネットワーク(RAN))
第218号 (8月発行)	大阪コリアタウン歴史資料館:伊地知紀子(大阪コリアタウン歴史資料館・大阪公立大学)
第219号 (10月発行)	d-lab2024全体会採録「私たちは出会ったために生まれてきた」
第220号 (2月発行)	非核独立太平洋運動誕生50年:竹峰誠一郎(明星大学)

また、交流を目的とした「DEAR Newsを読む会」を新たにスタートさせた。第1回は、2024年2月に発行した220号について自由に語り合う時間を3月7日に設け、感想や気づきを共有した。



<DEAR News220号を読む会 概要>

- ・日時:2025年3月7日(金)19:30~21:00
- ・参加者:8名

2)サポーターの募集

DEARを資金面で継続的に支援していただける人を増やし、組織強化につなげるために、2014年12月よりサポーター制度(年4,000円以上の定額寄付制度)を開始し、募集をすすめている。今年度は、過去会員や研修会参加者、書籍購入者にメールDMを送ったり、会員継続の際の紹介など、サポーターへの依頼を行った。

3)「DEAR応援企画」With DEAR

DEAR 応援企画「With DEAR あなたと『ともに』DEARと『ともに』」を計画・実施した。開発教育を継続・発展させ、現場で実践を行う方々を支え続けていくための活動資金として、100万円を目標額として寄付での応援を募った。

12月9日~1月31日の実施期間、DEARの応援者の方々からのコメント掲載、サイトや



SNSでの告知、関係者の方々からの情報拡散を呼び

かけた結果、寄付件数133件、総額1,505,810円という、目標額を大きく上回るご寄付に繋がった。

4)会員アンケートの実施

組織基盤の強化に取り組むうえで、会員の声を広く聴くために、会員アンケートを実施した。DEAR会員である理由や、利用する会員サービス、DEARへの

期待などについて意見を収集した。会員歴が長い方の回答が多かったが、会報のデジタル化については、多数の指示を得られたほか、期待することについては、以下の項目が上位に挙げられた。

- ・開発教育・開発問題・ファシリテーションなどの講座や研修(対面)の実施
- ・開発教育・開発問題・ファシリテーションなどの講座や研修(オンライン)の実施
- ・開発問題に関する教材・出版物の出版
- ・会員ネットワークの強化
- ・会員による活動の活性化(参加・コミットの数増加)

これらの声を参考にしながら、今後の組織基盤強化、体制づくりに活かしていく。

<概要>

- ・DEAR 会員アンケート
- ・実施期間:2024年11月1日~11月30日
- ・回収方法:メール配信。会員DM及び2回にわたるML配信にて。553名に配信。
- ・回答数:204件回答。有効回答率36.9%

5)アーユス NGO 新人賞受賞

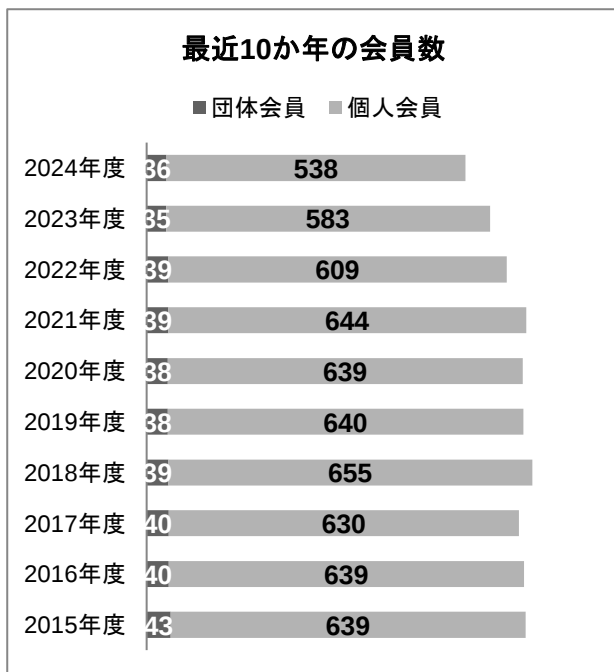
認定NPO法人アーユス仏教国際協力ネットワークの2024年度NGO新人賞を、松川清美職員が受賞した。国際協力NGOでの活動経験が少ないながらも、今後さらなる活躍が期待され、国際協力NGOの将来を背負っていくと期待される個人に授与される名誉な賞である。受賞理由としては、自分の生活や足元を軸にして、地域の一市民として社会を変える活動を行い、NGOの理念や活動が仕事だけでなく、生活をよくしていくライフスタイルの一部として広がる可能性を追い求め、暮らしを軸としたグローバルシティズン(地球市民)のあり方を模索している点が、高く評価された。

処務の概要

1) 会員に関する事項

2025年3月末現在の会員数は、次の通り。ただし、括弧内は昨年末比の数字。

- 正会員 団体 17団体(－2団体)
 個人 325名(－23名)
- 賛助会員 団体 19団体(+3団体)
 個人 213名(－22名)
 (内学生会員:7名／－9名)
- <参考> 団体会員 36団体(+1団体)
 個人会員 538名(－45名)



2) 役員等に関する事項(2025年3月末現在)

註: 役員等は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです。

●代表理事

佐藤友紀(大学講師)

●副代表理事

石川一喜(拓殖大学)

松倉紗野香(中学校教員)

●常任理事

阿部眞理子(認定NPO法人IVY)

奈良崎文乃(公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン)

前嶋 葵(NPO法人コモンビート)

●理事

秋山 映美(特定非営利活動法人監獄人権センター)

阿部 眞理子(認定 NPO 法人 IVY) ※常任理事

上條 直美(フェリス女学院大学ボランティアセンター)

近藤 牧子(大学講師)

高階 悠輔(認定 NPO 法人シャプラニール=市民による海外協力の会)

南雲 勇多(奈良教育大学)

西川 千佳子(マーケティングパートナー)

西平 久美子(認定NPO法人ハンガー・フリー・ワールド)

三宅 隆史(公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 / 教育協力 NGO ネットワーク)

山本 康夫(団体職員)

中村 絵乃(認定 NPO 法人開発教育協会)

伊藤 容子(認定 NPO 法人開発教育協会)

●監事

田中治彦(上智大学)

山崎唯司(団体役員)

●顧問

岩崎裕保(NPO法人関西NGO協議会)

●評議員

青沼 由衣(公務員)

岡 秀樹(志のぶ幼稚園)

小口 瑛子(会社員)

加藤 英嗣(小学校教員)

栗田 佳典(特定非営利活動法人関西 NGO 協議会)

栗本 知子(特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター(PARC))

逆瀬川愛貴子(会社員)

鈴木 洋一（特定非営利活動法人 Wake Up Japan）
関本 幸（レインフォレスト・アクションネットワーク（RAN））
田口 裕晃（特定非営利活動法人名古屋NGOセンター）
土屋 一步（特定非営利活動法人日本 NPO センター）
永田 賢介（認定 NPO 法人アカツキ）
西山 典仁（マーケティングパートナー）
古沢 広祐（「環境・持続社会」研究センター（JACES））
星 久美子（公益財団法人かながわ国際交流財団）

3) 会員総会に関する事項

2024年度定期会員総会

日時: 2024年5月25日(土)

会場: オンライン

＜第1部＞ 13:00～14:30

ワークショップ: 『教育をジェンダー視点で見直すヒント集』発行記念オンラインワークショップ

進行: 岩岡由季子(開発教育とジェンダー研究会)、近藤牧子(DEAR副代表)

＜第2部＞ 15:00～16:30

2024年度定期会員総会

＜議案審議＞

- 1) 2023年度事業報告および決算報告について
 - 2) 2024-25年度理事・監事・評議員候補者について
- ＜報告＞

- 1) 2024 年度事業計画および予算について
- 2) 退任理事からのごあいさつ

4) 理事会に関する事項

●第1回理事会

日時: 2024年5月25日(土) 16:45～17:45

会場: オンライン

議案:

1. 代表・副代表・常任理事等の選任について
2. 各種委員会の設置および委員選任・委嘱
3. 拡大理事会について

●第2回理事会

日時: 2024年6月8日(土) 10:00～16:00

会場: 富坂キリスト教センター1号館

午前ハイブリッド 午後対面

議案:

1. ＜報告＞現状報告と共有
2. ＜協議＞組織課題の議論
3. ＜決議＞次回理事会の議案提案

●第3回理事会

日時: 2024年9月14日(土) 10:00～16:00

会場: 立教大学 2号館1階グループワーク室、ハイブリッド

議案:

1. ＜報告＞ 前回のレビュー、財政分析
2. ＜決議事項＞ 会報について
3. ＜協議＞講師派遣と出版事業
4. ＜報告＞助成金検討委員会の報告
5. ＜協議＞今後の自主事業

●第4回理事会

日時: 2024年10月19日(土) 13:00～16:00

会場: オンライン

議案:

1. 上半期事業報告, 決算報告
2. 下半期事業計画, 修正予算
3. 2025 年度体制・事業について(一部報告事項)

●第5回理事会

日時: 2024 年 12 月 7 日(土) 13:30～16:30

会場: オンライン

議案:

1. 事務局報告
2. 理事チーム報告
3. 今後のシナリオの話と自主事業について
4. 今後の理事会

●第6回理事会

日時: 2025 年 3 月 8 日(土) 13:00～16:00

会場: オンライン

議案:

1. 事務局報告(①2024 年度事業報告・決算見込み、

②2025 年度事業計画・予算案、③奨学金事業・受託事業について)

2. 理事チーム報告(①講座チーム報告、若年層チーム報告)

3. 今後の理事会について

●第7回理事会

日時:2025 年4月 26 日(土)13:00~16:00

会場:オンライン

議 案:

1. 事務局報告
2. 理事チーム報告
3. 引っ越しについて
4. 会員総会について

5)評議員会に関する事項

●第1回評議員・理事合同会議

日時:2024年7月13日(土)13:00~16:00

会場:オンライン

議題:

<第1部 評議員会>

- ① 自己紹介
- ② 新評議員活動紹介
- ③ DEAR の現状

<第2部 グループディスカッション>

- ① DEAR を外から見ると
- ② サポーターについて

6)2024 年度事業評価・2025 年度計画会議

2024年度の事業評価と、2025年度の事業計画を共有し、議論した。

日時:2025年2月15日(土)13:00~17:00

会場:オンライン

議題:

- ・2024年度事業評価
- ・2025年度事業計画

7)各種委員会に関する事項(2025 年 3 月末現在)

本年度は、次のような各種委員会が理事会内に設置され、当会の運営や事業について協議を行った。

(註:各種委員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は

本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

① DEAR大阪運営委員

委員長:佐藤友紀(大学講師)

委員:岩崎裕保(関西NGO協議会)／大森容子(滋賀県国際協会)／談儀善弘(元高校教員)／榛木恵子(聖和共働福祉会)／丸山まり子(地球市民フォーラムなら)／中道愛子(神戸YMCA)／三輪敦子(アジア・太平洋人権情報センター)

② 機関誌「開発教育」編集委員会・査読委員会

青沼由衣(公務員)、小貫仁(多文化共生運動)、小野行雄(かながわ開発教育センター)、上條直美(フェリス女学院大学)、木村万里子(日本国際ボランティアセンター)、近藤牧子(DEAR)、佐渡友哲(日本大学)、重田康博(宇都宮大学)、田中治彦(上智大学)、奈良崎文乃(プラン・インターナショナル・ジャパン)、真加部湧大(Soka International School Malaysia)、山中信幸(高校・大学非常勤講師)、湯本浩之(DEAR会員)、中村絵乃・松川清美(DEAR)

8)プロジェクト・チームに関する事項

本年度は、以下のような研究会やプロジェクト・チームが設置され、各事業や活動の企画運営にあたった。

(註:役員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

<研究会・プロジェクト・チーム>

① SDGs研究会

上條直美(フェリス女学院大学)、近藤牧子(DEAR)、田中治彦(上智大学)、松倉紗野香(中学校教員)、本山明(元中学校教員・大学非常勤講師)、湯本浩之(DEAR会員)、伊藤容子・中村絵乃(DEAR)

②ファシリテーション講座運営チーム

阿部眞理子(IVY)、岩岡由季子(会社員)、上條直美(フェリス女学院大学)、近藤牧子(DEAR)、松倉紗野香(中学校教員)、谷田なつ美(小学校教員)、山本敬典(中学校教員)、山本康夫(団体職員)、伊藤容子・中村絵乃・中村健(DEAR)

③ d-lab2024(第42回開発教育全国研究集会)実行委員会

阿部眞理子(IVY)、木下理仁(東海大学非常勤講師)、佐藤友紀(DEAR理事)、高橋美和子(アムネスティ関西連絡会)、西平久美子(ハンガー・フリー・ワールド)、肥田進(しずおか自主夜間教室)、松倉紗野香(中学校教員)、本山明(大学講師)、中村絵乃、伊藤容子、近藤牧子、八木亜紀子、中村健(DEAR)

④ 「開発教育入門講座」チーム

岩岡由季子(会社員)、大野のどか(シェアスペースオーナー)、尾畑裕巳(個人)、定光香(リーダー／会社員)、進藤夏葉(個人)、田中浩平(団体職員)、原 麻衣(個人)、森 春佳(個人)、八木亜紀子、中村健(DEAR)

⑤ 会報「DEARニュース」編集委員会

阿部秀樹(リーダー／団体職員)、陣野俊彦(高校教員)、高橋瑞季(会社員)、滝本雅章(事務局ボランティア)、田中祥一(高校教員)、須磨珠樹(個人)、中園真由美(個人)、林美帆(団体職員)、八木亜紀子、松川清美(DEAR)

⑥ 「学びあい」コーディネーターチーム

阿部眞理子(IVY)、大野のどか(八王子市民のがっこうまなび・つなぐ広場)、佐藤友紀(大学講師)、関愛(いがたNGOネットワーク国際教育研究会RING)、南雲勇多(奈良教育大学)、西あい(学びあい事業コーディネーター)、山西優二(早稲田大学)、伊藤容子・中村絵乃(DEAR)

⑦ ジェンダー研究会

岩岡由季子(会社員)、片岡麻里、木村明日美(団体職員)、小口佳那子(British Red Cross)、近藤牧子(DEAR)、鈴木啓美(会社員)、奈良崎文乃(プラン・インターナショナル・ジャパン)、三輪敦子(アジア・太平洋人権情報センター)、谷田なつ美(小学校教員)、伊藤容子・中村絵乃・牧啓太・中村健(DEAR)

⑧ ALE編集チーム

阿部眞理子(IVY)、栗本知子(PARC)、近藤牧子(DEAR)、佐藤友紀(大学講師)、福田紀子(旅路の里)、

三宅隆史(立教大学)、伊藤容子・中村絵乃・牧啓太(DEAR)

⑨ 募金等検討チーム

高階悠輔(団体職員)、奈良崎文乃(団体職員)、西川千佳子(会社員)、西平久美子(団体職員)、西山典仁(会社員)、前嶋葵(団体職員)、伊藤容子・牧啓太・中村絵乃・八木亜紀子(DEAR)

⑩ おうち DE 開発教育チーム

小口瑛子(会社員)、近藤牧子(DEAR)、清水千絵(ファシリテーター)、前嶋葵(団体職員)、谷田なつ美(小学校教員)、松川清美(DEAR)

⑪ 講座検討チーム

阿部眞理子(IVY)、石川一喜(拓殖大学)、上條直美(フェリス学院大学)、近藤牧子(DEAR)、佐藤友紀(大学講師)、松倉紗野香(中学校教員)、山本康夫(団体職員)、伊藤容子、中村健(DEAR)

⑫ 助成金検討チーム

秋山映美(特定非営利活動法人監獄人権センター)、阿部眞理子(IVY)、高階悠輔(団体職員)、西川千佳子(会社員)、伊藤容子(DEAR)

⑬ 若年層検討チーム

高階悠輔(団体職員)、西平久美子(団体職員)、前嶋葵(団体職員)、逆瀬川愛貴子((会社員)、谷田なつ美(小学校教員)、伊藤容子、松川清美、中村健(DEAR)

10)職員に関する事項

事務局長	中村 絵乃(常勤)
事務局次長	伊藤 容子(常勤)
事務局長補佐	近藤 牧子(週3日)
事業担当	中村 健 (週3日)
事業担当	松川 清美(常勤)
事業担当	八木 亜紀子(常勤 週4日出向／12月より週3日出向)
経理・総務主任	牧 啓太(常勤)
書籍担当	若松 陽子(週2日)

11) インターン・ボランティアに関する事項

今年度参加したインターン・ボランティアは次の通り。

<事務局インターン>

岡田歩奈美(学生、2023年11月～継続)

安井亮太(社会人、2024年12月～2025年3月)

水落優青(学生、2025年2月～継続)

<事務局ボランティア>

滝本雅章(社会人、2007年11月～継続)

豊島おりは(学生、2022年4月～継続)

工藤冴子(学生、2023年5月～継続)

佐藤圭一(社会人、2023年8月～継続)

柳川ゆい(社会人、2023年11月～継続)

佐井木 敬裕(社会人、2023年12月～継続)

伊藤聖矢(会社員、2023年2月～継続)

鈴木嶺大(学生、2024年8月～継続)

12) 会員団体に関する事項

DEARが正会員として参加した団体は次の通り。

- ・ アジア南太平洋基礎・成人教育協会(ASPBAE)
- ・ 認定NPO法人国際協力NGOセンター(JANIC)
- ・ 教育協力NGOネットワーク(JNNE)
- ・ 一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク

資料編

資料1: メディア掲載・取材協力など

①5月22日(水)・29日(水) 公開

朝日新聞 with Planet ポッドキャスト「地球で働く！」

事務局次長の伊藤が出演した。「『開発教育』ってなんですか？開発教育協会・伊藤容子さんに聞く」は、2024年5月22日(水)に前編、29日(水)に後編が公開。

②6月『ムクウェゲ医師、平和への闘い―「女性にとって世界最悪の場所」と私たち』(岩波ジュニア新書 986) 岩波書店

岩波ジュニア新書の『ムクウェゲ医師、平和への闘い』を事業主任の八木亜紀子が立山芽以子、華井和代と共に執筆した。

③7月24日(水) 愛媛新聞

2024年7月21日(日)に中高生らでつくる非政府組織「Bof(ボフ)」が愛媛県松山市の新玉公民館で主催した貿易ゲームの様子が掲載された。事務局長の中村が講師として参加。

④8月 日刊ゲンダイDIGITAL

事業主任の八木亜紀子が共著者として執筆した『ムクウェゲ医師、平和への闘い―「女性にとって世界最悪の場所」と私たち』(岩波ジュニア新書 986)について、日刊ゲンダイDIGITALに文筆家・イラストレーターの金井真紀様が書評を公表。

④ 10月21日(月) 日本教育新聞

8月に開催したd-lab2024の様子が掲載された。全体会「私たちは出会うために生まれてきた」の他、第5分科会「『社会を変える学び』とは？SDGs学習を考える」や自主ラウンドテーブル「これでいいの？今の学校～自主夜間中学の実践から」なども紹介している。

⑥2025年1月17日(金) 文化時報

2024年12月13日に、仏教NGOネットワークが東京都渋谷区で開催した「ジェンダーについて気づきを得るワークショップ」の様子が掲載された。事務局長の中村が講師として参加。

⑦3月20日(木)週間仏教タイムス

2月27日(木)に、アーユス仏教国際協力ネット

ワークが表彰するアーユス賞授賞式の様子が掲載された。職員の松川がNGO新人賞を受賞。

資料2:「名義後援・協力」の実績一覧(計12件)

<後援名義>

① 独立行政法人国際協力機構
「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2024」

② 公益財団法人日本クリスチャンアカデミー関西セミナーハウス活動センター
「2024年度開発教育セミナー」

③ 公益財団法人滋賀県国際協会
「国際教育教材体験フェア in 滋賀 2024」

④ 公益財団法人滋賀県国際協会
「2024年度国際教育ワークショップ 地球市民を地域とともに育てよう part 23 「日常に埋め込まれた差別に気づく～マイクロアグレッションについて～」

⑤ 特定非営利活動法人関西NGO協議会
「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2024 ～私たちの描く持続可能な社会の未来図～」

⑥ 特定非営利活動法人NGO福岡ネットワーク
「第24期NGOカレッジ『身近なものから「知る」「学ぶ」国際協力』」

⑦ 独立行政法人国際協力機構関西センター
「国際教育入門セミナー2025 in奈良「みらいをかたる へいわをつくる」」

<協力名義>

① 認定特定非営利活動法人 FoE Japan
「国際シンポジウム: 気候危機とたたかうアジアの人々の声」

② 札幌市円山動物園
「パーム油問題を学び、円山動物園での教育プログラムを考えるワークショップ」

③ 特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター(PARC)
「ドキュメンタリー映画「カムイチェプ」上映会」

④ 独立行政法人国際協力機構関西センター
「2024年度開発教育・国際教育セミナー「世界を感じて、その先へ～コミュニケーションから考える対立と平和～」」

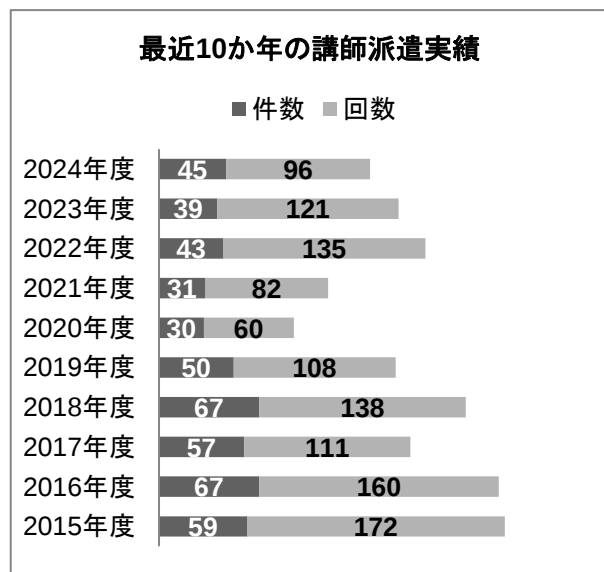
⑤ 教育協力NGOネットワーク
「SDG4教育キャンペーン2025」

資料3:他団体への「賛同・協賛」の実績一覧(計5件)

<賛同>

①アーユス仏教国際協力ネットワークほか
「ミャンマーで困難な状況にある人びとに、確実に届く国際協力を求めます」(2024年10月4日)

資料 4:「講師派遣」の実績一覧（計 45 件 96 回）



派遣者: 松川清美
実施形態: オンライン

5 「中 2／中 3 グローバルラボ」(2024/5/18,12/11／計 4 回)

主催: 甲南中学校
内容: 100 人村、貿易ゲーム
対象: 中学生
派遣者: 佐藤友紀
実施形態: オンライン

6 「令和6年度「消防職員コース～非常時における外国人とのコミュニケーション～」」(2024/5/28／計 1 回)

主催: (財) 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所
内容: バーンガ
対象: 自治体・公務員
派遣者: 伊藤容子
実施形態: 対面

7 「第 4 回国際理解講座」(2024/5/30／計 1 回)

主催: 愛知県立刈谷北高等学校
内容: プラスティックごみ
対象: 高校生
派遣者: 佐藤友紀
実施形態: 対面

8 「環境起学特別講義 I(わたしたちのエクイティ・トレーニング)」(2024/6/1,30,7/13／計 3 回)

主催: 北海道大学大学院環境科学院
内容: ジェンダーなど
対象: その他
派遣者: 八木亜紀子
実施形態: 対面

9 「1 学年総合的な探究の時間 共生社会探究」(2024/6/3／計 1 回)

主催: 北海道平取高等学校
内容: 気持ちを伝えるコミュニケーション
対象: 高校生
派遣者: 八木亜紀子
実施形態: 対面

1 「上智大学短期大学部杉村ゼミナール」(2024/5/1／計 1 回)

主催: 上智大学 短期大学部
内容: パーム油
対象: 大学生
派遣者: 伊藤容子
実施形態: 対面

2 「アレセア湘南中学校」(2024/4/10,16／計 2 回)

主催: 学校法人平和学園
内容: 対立 コミュニケーション
対象: 中学生
派遣者: 中村絵乃
実施形態: 対面

3 「第 2 学年 総合的な探究の時間」(2024/4/25／計 2 回)

主催: 埼玉県立八潮南高等学校
内容: パーム油
対象: 高校生
派遣者: 伊藤容子、中村健
実施形態: 対面

4 「東洋大生がワークショップで考える SDGs(オンライン)」(2024/5/11／計 1 回)

主催: 東洋大学
内容: パーム油
対象: 大学生

10 「多様性の理解と参加型・体験型授業の提案」
(2024/6/5／計 1 回)

主催:町田市立町田第二中学校

内容:100 人村

対象:教員・教育関係者

派遣者:伊藤容子

実施形態:対面

11 「はじめての環境問題ワークショップ ?持続可能な未来を考えよう?」(2024/6/13,14,20／計 3 回)

主催:学校法人角川ドワンゴ学園 N 高等学校

内容:プラごみ

対象:高校生

派遣者:八木亜紀子

実施形態:オンライン

12 「鎌倉女学院高等学校」(2024/6/15／計 6 回)

主催:鎌倉女学院中学校・高等学校

内容:コーヒー、スマホ、パーム油

対象:高校生

派遣者:伊藤容子,近藤牧子,中村健(ボランティア2名)

実施形態:対面

13 「「宗立宗門学校における仏教教育」研究班勉強会」
(2024/7/5／計 1 回)

主催:浄土宗総合研究所

内容:パーム油

対象:教員・教育関係者

派遣者:伊藤容子

実施形態:オンライン

14 「2024JAL スカラシップ・プログラム」(2024/7/14／計 1 回)

主催:公益社団法人 日本環境教育フォーラム

内容:パーム油

対象:大学生

派遣者:中村絵乃、ボランティア

実施形態:対面

15 「ちゃぶ台集会」(2024/7/17／計 1 回)

主催:豊中市市民公益活動支援センター

内容:地域の問題を考える

対象:一般・不特定の市民

派遣者:佐藤友紀

実施形態:対面

16 「貿易ワークショップ」(2024/7/20,21／計 2 回)

主催:Bridge of friendship

内容:貿易ゲーム

対象:一般・不特定の市民

派遣者:中村絵乃

実施形態:対面

17 「セイコーエプソン DE&I フェア」(2024/8/20／計 1 回)

主催:セイコーエプソン株式会社

内容:100 人村、レヌカの学び

対象:企業・会社員

派遣者:中村絵乃、松川清美

実施形態:対面

18 「令和6年度消費者教育教員研修」(2024/8/22／計 1 回)

主催:神奈川県県民局

内容:コーヒーカップの向こう側

対象:教員・教育関係者

派遣者:伊藤容子、松川清美

実施形態:対面

19 「医療、介護、福祉事業」(2024/8/31,10/12,11/16／計 3 回)

主催:山梨民主医療機関連合会

内容:人権、平和

対象:企業・会社員

派遣者:中村絵乃、松川清美

実施形態:対面

20 「教職員研修」(2024/9/2／計 2 回)

主催:海城中学高等学校

内容:ジェンダー

対象:教員・教育関係者

派遣者:近藤牧子、中村絵乃、ジェンダーチーム

実施形態:対面

21 「職員研修」(2024/9/6／計 1 回)

主催:横浜市栄区役所
内容:バーンガ
対象:自治体・公務員
派遣者:中村絵乃
実施形態:対面

22 「親子体験学習会」(2024/9/21／計 2 回)

主催:東京都私立初等学校協会 社会科部
内容:100 人村
対象:小学生および保護者
派遣者:近藤牧子、中村健
実施形態:対面

23 「親子体験学習会」(2024/9/21／計 1 回)

主催:札幌市円山動物園
内容:パーム油
対象:職員
派遣者:八木亜紀子
実施形態:対面

24 「SDGs 実践講座第 2 回」世界がもし 100 人の村だったらから考える SDGs(仮)」(2024/9/27／計 1 回)

主催:東洋大学
内容:100 人村
対象:大学生
派遣者:中村健
実施形態:オンライン

25 「次世代役員研修会」(2024/9/30／計 1 回)

主催:日本郵政グループ労総組合埼玉県連絡協議会
内容:スマホ
対象:組合幹部候補者
派遣者:中村絵乃
実施形態:対面

26 「職員研修」(2024/10/1／計 1 回)

主催:ノートルダム女学院高校
内容:100 人村
対象:高校生
派遣者:佐藤友紀
実施形態:対面

27 「龍谷大学「国際 NGO 論」」(2024/10/9／計 1 回)

主催:(特活)関西 NGO 協議会
内容:スマホ
対象:大学生
派遣者:佐藤友紀
実施形態:対面

28 「杉村ゼミ」(2024/10/9／計 1 回)

主催:上智大学短大
内容:スマホ
対象:大学生
派遣者:伊藤容子
実施形態:対面

29 「職員研修」(2024/10/23.24／計 2 回)

主催:山梨民医連
内容:難民
対象:医療従事者
派遣者:中村絵乃、松川清美
実施形態:対面

30 「高校ユネスコ部協議会」(2024/10/26／計 1 回)

主催:栃木県高校ユネスコ連絡協議会
内容:100 人村
対象:高校生
派遣者:中村絵乃
実施形態:対面

31 「気候変動・生物多様性タウンミーティング in 円山動物園」(2024/11/16／計 1 回)

主催:環境省北海道環境パートナーシップオフィス
内容:パーム油
対象:中高生
派遣者:八木亜紀子
実施形態:対面

32 「女子中高生向けキャリア教育」(2024/11/24／計 1 回)

主催:Girls Unlimited Program (GUP)
内容:キャリア教育
対象:中高生
派遣者:八木亜紀子
実施形態:対面

実施形態:対面

33 「人権教育研修」(2024/11/29/計 1 回)

主催:足立区教育委員会

内容:ジェンダー

対象:教員・教育関係者

派遣者:中村絵乃、中村健、ジェンダーチーム

実施形態:対面

34 「研修会」(2024/12/13/計 1 回)

主催:仏教 NGO ネットワーク

内容:ジェンダー

対象:団体職員

派遣者:中村絵乃、ボランティア

実施形態:対面

35 「令和6年度海外研修事業」(2024/12/16/計 1 回)

主催:全国商業高等学校協会

内容:パーム油

対象:高校生、教員

派遣者:中村絵乃

実施形態:対面

36 「横浜市立富岡小学校 PTA 主催ワークショップ」
(2024/12/26/計 1 回)

主催:横浜市立富岡小学校

内容:100 人村

対象:小学生

派遣者:伊藤容子

実施形態:対面

37 「人権教育研修」(2025/1/11/計 2 回)

主催:二松学舎大学附属柏中学校

内容:ファッション、ほか

対象:中学生

派遣者:中村絵乃、中村健

実施形態:対面

38 「平和教育指導者育成研修」(2025/2/1,2/計 2 回)

主催:うなあ沖縄

内容:学習プログラムの作り方など

対象:教員・教育関係者

派遣者:中村絵乃

39 「多文化共生ワークショップ」(2025/2/8/計 1 回)

主催:IVY

内容:対立など

対象:一般・不特定の市民

派遣者:中村絵乃

実施形態:対面

40 「令和6年度第3回栃木県国際理解教育ネットワーク勉強会研修会」(2025/2/22/計 1 回)

主催:JICA つくば

内容:開発教育講座ほか

対象:職員

派遣者:湯本浩之

実施形態:対面

41 「職員研修」(2025/2/26/計 1 回)

主催:築地本願寺

内容:ジェンダー

対象:職員

派遣者:中村絵乃、ジェンダーチーム

実施形態:対面

42 「基礎課程演習など」(2024/4/8/計 10 回)

主催:聖心女子大学

内容:難民・ジェンダー・気候変動

対象:大学生

派遣者:中村絵乃、伊藤容子、近藤牧子

実施形態:対面

43 「高校生向け研修」(2024/4/8/計 5 回)

主催:聖心女子大学

内容:難民・ジェンダー・気候変動

対象:高校生

派遣者:中村絵乃、伊藤容子、八木亜紀子、近藤牧子

実施形態:オンライン

44 「医療専門学校教員研修講義「国際理解教育論」」
(2024/8 月/計 4 回)

主催:医療研修財団

内容:開発教育講座ほか

対象: 専門学校教員

派遣者: 近藤牧子

実施形態: オンライン

45 「市民活動論」(2024/4 月～7 月／計 14 回)

主催: 早稲田大学

内容: 開発教育講座ほか

対象: 大学生

派遣者: 中村絵乃

実施形態: 対面

以上